

那木加甫

平成 26 年度 文化科学研究科学生派遣事業 研究成果レポート

1. 事業実施の目的：博士論文を作成のためのデータ収集
2. 実施場所：東京・京都・大阪
3. 実施期日：平成 26 年 8 月 20 日（水曜日）から 8 月 31 日（日曜日）
4. 成果報告

#### ●事業の概要

今回は日本におけるモンゴル、中央ユーラシア（カルムイクを含む）とチベット仏教に関する研究資料を多数有する東京・京都・大阪にある各大学の図書館や国立図書館・文庫などを訪問し、11 日間の資料収集を行った。今回の調査はあくまでは博士學位論文を作成における最初の段階となるため、主に私の研究テーマに関連する最新の研究成果(学術論文と著作)と、テキストとして引用できる文献を調べた。

今回の調査において、対象となった主な図書館は以下の通りである。

東京：東京大学図書館、早稲田大学図書館、東京外国語大学図書館、一橋大学図書館、国立国会図書館(本館)、東洋文庫。

京都：京都大学図書館、仏教大学図書館、国立国会図書館(関西館)、大谷大学。

大阪：大阪大学図書館。

#### ●本事業の実施によって得られた成果

本事業の実施によって得られた成果としては、これから執筆する博士學位論文の作成に際して、史料として引用できる資料、または先行研究として参考できるような著作や学術論文を幾つか発掘した。その例を挙げると以下の通りである。

##### 1) 史料として引用できる資料

波多野養著作

1907 『新疆視察復命書』 外務省政務局。

海軍軍令部編

1913 『西北蒙古事情及附圖』 海軍軍令部。

イ・ボボフ著；石川喜三郎訳

1917 『西藏蒙古秘密喇嘛教大観』 日露出版協会。

須佐嘉橘

1934 『西蒙古部族考』 克魯倫研究室。

グルマ・グルヂマイロ著

1938 『西部蒙古及烏梁海地方の自然地理概観』(下) 満鐵産業部。

藤枝晃、岩村忍編

1953 『蒙古研究文献目録、1900—1950 年』 京都。

摩尼 和夫

2002 「カスピ海沿岸のカルムイク共和国における教育と信仰—シベリア流刑を乗り越えたヨーロッパ唯一の佛教国」『日本仏教教育学研究』(10)、(128~133)。

これらのうち、20 世紀前半に書かれた外国語著作は同時期に中国側で作成された当該地域に関する档案資料や公文書に記録されてなかった内容が含まれていたり、異なる視点で書かれてい

たりしており、貴重な資料であると思われる。また、現在の日本には、カルムイクに関する資料が少ないため、摩尼（2002）は、カルムイクの仏教信仰の実態や基本情報を含んでいるという点で、筆者の現時点における資料整理や研究計画の執筆に役立てることができる。

## 2) 先行研究として参考できる資料

多田、孝文

1994 『中国青海省塔爾寺における佛教文献調査研究』 文部省科学研究補助金研究成果報告書。

荒井幸康

2006 『「言語」の統合と分離 1920-1940年代のモンゴル・ブリヤート・カルムイクの言語政策の相関関係を中心に』 三元社。

李信成 著

2002 『中共統治下的新疆蒙古人：國家整合理論的個案分析』 台北、蒙藏委員會。

宝力高 著

2012 『蒙古文佛教文献研究』 北京、人民出版社。

多田（1994）、李（2002）、宝（2012）などの3冊の著作は、オイラド研究の拠点とも言える日本、台湾、中国における最新の研究成果であり、筆者のこれから執筆する博士学位論文の問題設定、研究意義の概括などの面において、参考になる。また、荒井（2006）は日本におけるカルムイクを対象とした数少ない著作の一つであるため、私のこれからの勉強において、学びたいものである。

要するにこれらの資料は、今後執筆する博士学位論文において、主な資料として活用できると思われる。

## ●本事業について

文化科学研究科学生派遣事業の援助を受けて、感謝しております。これからもっと頑張りたいと思いますが、また宜しくお願い致します。